

# あすなろ

菩提寺北小学校校報 2012 2月号 (1/25発行)

通算215号 児童数329名

♪『あすなろ』→明日は楡(ひのき)になるの意

## 学校教育目標

【豊かな心と生涯学び続ける力を持ち、  
たくましく生きる人間の育成!】



あつという間に時が過ぎるこの頃、こんな言葉を思いつ  
つ今を過ごしています。

経験(知見)は人を賢くする  
散歩(ゆとり)で身心を再生する<sup>リセット</sup>  
体験(実践)は人を成長させる

2011.7「悠」より

ひとこと

いよいよ二月に入ろうとしています。二月は、「如月」とも言います。その語源由来について調べてみますと、二月は、寒さで着物を更に重ねて着ることから「着更着(きさらぎ)」とする説が有力だというのが主な語源だと記されておりました。また過ぎ去ろうとしている一月「睦月」は、「睦」の文字通り、親類知人が互いに往来し、仲睦まじくする月からとするのが有力だとも記されており、なるほど、と、日常を振り返りました。 「語源由来辞典」より

さて、一月十七日に「避難訓練」(地震想定)を行いました。その日は皆様の記憶にきつと残されていると思います。ちょうど十七年前、平成七年に起きた大災害「阪神淡路大震災」の日です。

子どもたちには、去年、平成二十三年三月十一日の「関東東北大震災」とともに避難訓練の大切さを訓練を通して学びました。今回は、突然起こる災害に一人ひとりの子どもが行動できるか、今までの避難訓練の学びが活かされるかと、できるだけ突然起こる災害に対応できる訓練になるようにと考え、子どもたちには訓練について告げずに行いました。

訓練は、二校時終了後の長い休み時間(二十分程度)が始まって五分後でした。教頭先生からの緊張した放送が突然屋内・屋外に流れました。いろいろな場所に移動している子どもたちはびっくりした様子もありましたが、放送をきちんと聞きその指示に従い行動しました。

結果、日頃の訓練がよく生かされ全員無事に短時間で真剣に避難できました。被災地の中学生が『津波でんでんこ』という教えと避難訓練をしていたことが震災時に役に立ちました。おかげで命が助かった。と、という内容の言葉が報道されていました。改めて子どもたちに『自分の命は自分で守る』そして、『生きる』ことの大切さ精一杯伝えました。

< 学校生活の取組みから・・・お届けします。 >

『あすなろ運動』・『広野物語』

三学期は校報214号でもお届けしましたように学校評価を受け次年度に向けること、直ぐに取り組めること等を確認し、先ず『学校が楽しい』と感

## 【二月行事】

- 2/1(水) 全校集会①・委員会活動⑥
- 8(水) 人権の日・食育の日
- 11(土) 建国記念の日
- 15(水) 安全の日  
クラブ活動⑥(3年生クラブ見学)  
マツゾウくん
- 17(金) みのりさんお別れ会(岩根小)  
みのり大冒険
- 19(日) 湖南省早春コンサート(甲西文化ホール)
- 20(月) 学校保健委員会
- 21(火) 1年生保幼交流
- 22(水) 縦割り活動(昼休み)
- 23(木) 保幼小連絡会
- 24(金) 4年生ビスガ甲西と交流⑤⑥
- 27(月) 六年生を送る週間(～3/2まで)  
校内版画展(～3/2まで)  
クラブ発表週間
- 29(水) 研究会のため⑤校時まで



## 【あすなろ応援団活動コーナー】

1/29(日)は、「あすなろウィンターカーニバル」  
昔遊び 木のクラフト  
がりがりとんぼ・竹の名前焼き  
レゴロボ実演  
餅つき 豚汁 あすなろカフェなど



楽しい催しがいっぱい! ※バザーもありますよ!

当日参加も大歓迎!

みなさん誘い合わせておいでください!

問い合わせ先: 菩提寺北小 74-3881(教内・柏原まで)

じられ、**みんなが笑顔で過ごせるように**、「やりきること」そして、「今、この時をしっかりと生きること」を再度確認しきちんと仕切り直して取り組んでいます。

今、学校生活の学びの基本となっている『あすなる運動』について振りかえりを大事にし、重ねて指導を進めています。

保護者の方は、菩提寺北小学校『学びのプラン』のリーフレットや今までの校報、学年学級通信等でご承知いただいておりますように、『あすなる運動』の姿は

① あいさつ・・・「おはよう・ありがとう・ごめんね・すみません・いただきます・ごちそうさま・さようなら」など、**自分の優しい気持ちを相手に届けていきます。**

② すっきりそうじ・・・**掃除の仕方とともに時間いっぱい隅々まですっきり掃除をやりきり**、「ああきれいになった。」「スツとした。」「すっきりした。」など、**心までスッキリした気分を味わえるように掃除をします。**

③ なかよく・・・「学校が楽しい」と思えるのは、「授業が分る。勉強が楽しい。先生や仲間がいる。みんなと遊ぶ時間がある。みんなと食べる給食がおいしい。」などと**当たり前前の楽しさがあるように**、教師がそれぞれの学級や学年、また全校児童と過ごす時間を今まで以上によいものとなるよう具体的な手立てを講じ、遅々とした歩みであっても子どもたちとともに真剣に取り組む努めています。



④ ろうかほこう  
廊下歩行・・・

④ 廊下歩行・・・**校内は、静かに過ごすこと。落ち着いた気持ちの中にじっくりと学びます。**また歩くことで、ぶつかったり喧嘩になったりすることがなく、放送なども

しっかり聞くことができ、**緊急時の対応**もできます。**安全にそして安心して**過ごすよう皆で努めます。

以上のことを先ず『やりきる』ことから決め、全校で進めています。そうすることから、子どもたちの学校生活の基本をしっかりとつくり楽しい学校生活に繋いでくようにしています。どれもみな当たり前前の活動です。けれどなかなか定着できていません。今より少しでもよい姿となっていくよう方法や関わり方などを再考し努めています。



## ② 音楽集会『広野物語』について

～『組曲：広野物語』に願いを込めて・・・～

音楽物語、『組曲：広野物語』は、平成8～9年度にかけて生まれました。平成7年度開校当時、菩提寺北小学校で学べることやこの地をふるさととして誇りを持って新しい学校生活を送ってほしい。と、という願いが学校にありました。

先ず、教育目標を『豊かな心と生涯学び続ける力を持ちたくましく生きる人間の育成』と据え、日々の教育活動を進める中、思う願いを音楽教育に託しました。子どもたちの素直な心を歌声にし、よさとして生かし、より子どもたちが伸びるように、また、その時だけのものではなくて学校の大事な宝物となるようにと考えました。さらに、学校の活力を育むには、子どもの力で継続されることが一番たいせつだと考えたのです。

そんな願いや思いを集結させたものが、全校児童で綴る『組曲：広野物語』となりました。

この曲は、この菩提寺の地を『ふるさと』とする目の前の子どもに、この地域をよく知り、より好きになり、歌えばその歴史が説かれるようにとつくりあげました。

また、合唱曲の表現は、ひとりではできません。学級・学年・全校みんなでもと心通わせて大成するところに、菩提寺北小はひとつ、みんななかよし仲間なんだ、と、いう誇りを持つことにも繋いでいこうとしました。



やがて時はうつり、今では当時の願いが本当に生かされ、『宝物』となっています。

平成23年度の今日まで、こうして脈々と歌い継がれた『組曲：広野物語』は、伝統文化として学校をつくっている柱ともなっています。

このような経緯のもと、今日まで歌い継がれてきたこの曲は、今、また時の流れのとともに、地域にも大きな思いを届け、大切にされています。

六年生の総合的な学習や歴史学習でもはこの「広野物語」に歌われていることを学びます。実際に広野の史跡を訪ね学習しています。小さい頃から歌ってきた内容に触れ新たな感動を味わいます。歌うことで大まかな歴史の様子を感じている子どもたちには学習内容がよく分り、分りやすい学びに繋がっています。

また、菩提寺まちづくり協議会の方でも「きらめき合唱団」が結成され、地域の方々や卒業生が「広野物語」にふるさとの歴史を重ねつつ現在取組まれております。

